

組織部速報

2021年6月10日

No.54

2021年度夏季手当 第3回交渉（会社の考え方）を行なう！

本日行なわれた第3回交渉にて、会社は現時点の考え方を明らかにしました。

- 昨年度はコロナ禍、九州の7月豪雨災害、年末年始の雪害等により大幅な収入減となった。決算においては単体・連結共に黒字は確保したものの、一昨年と比べると70億円超の減収となっている。
- 現在の収入状況は、対前年度比では10%程上回っているが、対計画比では10%程下回り、計画未達となっている。
- 2021年度事業計画を策定する場面では、一昨年並まで収入が回復すると見込んでいたが、実際そうはならなかった。先行き不透明な状況は今後も続くと想定される。
- これまでの組合員の労苦に添えていかなければならないことは認識しているが、現時点では昨年の年末手当の水準をどれだけ上回ることができるか検討していきたい、という考えである。

これに対し中央本部は、

- 計画未達やコロナ以前の一昨年の話をされても、組合員は納得できない。職場では日々、コロナ対策をしながら与えられた業務を一生懸命に担い、その努力によって安全・安定輸送の確保と黒字決算を成し遂げてきた！
- 前回交渉で要求の根拠を示したが、本当に経営陣に伝わっているのか？本日会社から示された考え方では、昨年から今日までの努力は何も評価されていない、ということになる（怒）職場の組合員の感覚とはあまりに乖離が大きく、到底納得できない！再考を求める！

と強く指摘しました。

計画未達は組合員の責任ではない！
回答指定日において、職場の声を結集させよう！